

第二十號

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

文明之母第二十號目次

社說

看病婦論（第二）

家政

育兒衛生法……醫學士 關場不二彥

文藝

結婚の栞……許 玉 敬 人

餘寒……畠 山 健

名所霞○池邊柳……町 原 熙 麿

鶯○朝霞……島 重 老

いかのぼり（和文）……高等女學校教諭 中 村 秋 香

小說

竹取翁物語講義

批評

東髮色風琴（挿畫）……漣 山 人

ペルッ氏の存娼論

「むこひよび」の盲評を讀みて……H. N.

「風流栁さし」と「寫國圖」を讀みて……琴 水 女 史

近刊諸雜誌

雜錄

熊澤の母の文附熊澤の墓……鶯陵迂人 山 下 重 民

一學生 D. M. 氏へ……鐵 筆 將 軍

米國勞働婦人の現況

餘興＝考物（懸賞）

叢報 十數件

寄書（鈴木ちか子、金子くさ子、鈴木彥松、菊池亭暉文四氏の近詠）

本誌ハ毎月二回三日十八日に發行す

本誌ハ前金に非れば發送せず

本誌の定價は一册金六錢十二册半年分金六十八錢廿四册一年分金一圓卅錢全國無遞送料

本誌の廣告料は「五號活字廿三字詰」當り左の如し

	壹回	二回以上
壹行	金八錢	金七錢
三十行以上	金七錢	金六錢
六十行以上	金六錢	金五錢

本誌の見本は郵劵六錢を送らるれば呈す

本誌代金御回送の節ハ內國遞送爲替又は東京郵便局へ御振込被下度

郵劵代用は一割增

本誌の前金將に相切れんとする時ハ廿卷の宿所姓名を朱書して發送すべし

版權所有

主筆 大矢森之助

發行兼編輯人 中村一 東京深川區諸町十三番地

印刷人 小西石造 東京深川區仲町八番地

發行所 東京日本橋區大傳馬町二丁目貳拾貳番地 生文社

特別大賣捌

東京本郷區元富士町四丁目	盛春堂
仝日本橋區小網町四丁目	信文堂
仝京橋區三十間堀一丁目	瓦明堂出張店
仝神田區佐柄木町	東海堂
仝日本橋區本石町四丁目	指金堂
埼玉縣鴻巣町	長島本店

大賣捌

埼玉縣越ヶ谷町	協立舍
仝所澤	尚文堂
仝浦和町	文華堂
仝熊谷町	近榮堂
仝川越町	水村岩三郎
仙臺國分町	三友社
越中富山	昇田善二郎
仝	大橋甚吾
越後長岡	目黑十郎
仝	松田周平
秋田	本間金之助
神奈川	吉川伊兵衛
名古屋	永樂屋
大坂	松村九兵衛
仝	前川善兵衛
和歌山	平井文助
出雲松江	盛進堂
熊本	長崎二郎
仝千反畑	文明堂
群馬前橋	黑崎長三郎

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

母刀自

拿破崙一世の朝に仕へたる乳母カムパン夫人は當時優れたる教育家とて名高かりける或日上は夫人に向ひ古より傳はれる教授の方法は今となりては更に用なきものなりよしや今佛蘭西の少年が善き教育うくるには何とか望む所なるべきとの玉へば夫れたゞに母刀自をといらへたり上は其の返辭の短かくて深く意味あるに感せられ噫唯ひと言の教育法なるかなと呼びたまひたり(千八百四十年マンチエスタア府學務委員合衆國に於ての報告書第十八葉)

鈍廼風流士

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

文明之母第二十號

明治二十三年三月三日發兌



○看病婦論

吾人は信ず、衛生醫治日進の今日に於いて、頗る緊要なる問題は看病婦に關する事なりと、故に本論に就き輕々に看過せざらんことを預め讀者に切望せざるを得ず。

吾人が玆に謂ふ所の看病婦は、院醫の手先たる部屋婦と、患者に雇はれて專ら其の看護に從事する看護婦とを總稱したるものなり。

吾人は今本論に入るに先ち、聊か其の何故に本論を起せしかを敍述するの必要を見る。何となれば之を敍述するは看病婦に就きての注意を讀者に促がすに最適最切なるものと信ずればなり。

嘗て人あり泣いて吾人に訴ふて曰く、若し此の社會に鬼の如きものありとすれば、病

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

院の看護婦なる者は實に其の鬼なるべし。彼等は成程看護の法には熟練せるなるべし、然れども患者に對する不親切は實に驚くに堪えたり。世間病院を獄屋の如くに信認する者あり、蓋し斯かる無殘なる鬼あればなる可し。願くは之を紙上に公告して、世間幾多の憐むべき患者をして、決して斯の鬼の下に呻吟せしむる勿れと。又人あり熱心に吾人に告げて曰く、若し此の社會に佛の如き者ありとすれば、病院の看病婦なる者は實に其の佛なる可し。彼等は成程表面は無情なるが如くなれども、却て其の親切なるは實に感ずるに餘りあり。世間病院を極樂の如くに見做すものあり、願ふに斯かる親切なる佛あればなる可し。請ふ之を誌面に公言して、世間幾多の憐む可き患者をして、必らず此の佛の下に病を養はしめよと。嗚呼兩者の言ふ所何ぞ其れ相反する斯くの如きや、吾人は如何にも怪訝に堪えざりき。是れより病院に在りし者とし聞けば、就きて問ふに其の看病婦の實況を以てす、或者は曰く眞に鬼の如しと、或者は曰く實に佛の如しと、萬口必らず此の二言に出でず。吾人益々之を怪しみ、始めて其の實況を觀察せざる可からざるの必要を感ず。而して多數に質すの後、自ら實驗したる所に依り、實に左の如きを發見し、之を記述するの必要を見たり。

看病婦を疾む者は必ず貧者なり、看病婦を賞する者は必ず富者なり、之を毀る者は必

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

らず賤者なり、之を讃する者は必らず貴者なり、換言すれば之を憎み之を毀る者は必らず下等室に在りし者なり、之を賞し之を讃する者は必らず上等室に在りしものなり。

嗚呼両者のいふ所何れか眞なる乎、何れか無理なる乎。

蓋し今日の看病婦なるものは無情なり、其の實甚だ不親切なり、遠慮なく之を言へば機械的なり。彼等は成程形の如くに藥瓶藥袋を患者に配布するならん、形の如くに洗手盥を院醫に捧ぐるならん、形の如くに寒温器を挾むならん、形の如く吸入器を用ふるならん、形の如くに脉動を測るならん、尿水の分量を撿するならん、能く灌腸を爲すならん、能く繃帶と爲すならん。然れども嘆ず可きかな、慨す可きかな、最も肝腎なる一片親切の情あるなし。それ親切の情なし、故に上等室に在るものには能く意を用ひ、下等室に在るものには更に顧慮する所なし。然れども彼等は强慾なり、宛然蝴蝶物語中貪婪國の婦人なり、下等室に在る者とても時として衣を給し茶菓子を贈り小遣錢與へなば、彼等は隨分意を用ふるなり。勿論病院の規則を看れば、患者若し成規外に看病婦に贈り物せば、依估の沙汰是に起り偏頗なる所業是に生ず可ければ、堅く之を禁ずるといふ。乃ち贈りたるの患者は退院を命せられ、贈られたるの看病婦は放逐せらるゝなり、實に

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

斯くあらねばならぬ事にこそ。然るに實際に此の規則の行はれざるを奈何せん。嗚呼實際に此の規則の行はれざるを奈何せん。

一患者あり看病婦に贈り物せず、否贈り物せざる可からざるの必要なるを知らず、殆んと死に瀕して苦痛に惱む、乃ち看病婦に請ふて曰く、願くは宿直醫の一診を煩はさんと。看病婦立ろに叱して曰く、不可なり、些々たる痛苦を感じたればとて、一々醫師の看診を請ふ可からずと。患者空しく泣く。而して竟に一診を得るに及ばずして死す。斯の如きもの往々にして之有りと聞く。嗚呼體衰へ神疲れ、永く病床に呻吟して痛苦に惱む者、恃む所のものは實よ親兄弟と醫師とのみ、其の苦痛いよ／＼烈しく、吐息ますます迫り、玉の緒もいとゞ細りて絶えざる縷の如きに至り、身は病院の一室にありて傍に親同胞なきに當り、醫師の看診を願ふれ勿論切なる可し。而して枯野の蟲の音より細き聲音もて之を看病婦に請へば、直ちに一叱に附し去られ、遂に恃む所の醫師の影すら見ずして死ぬるとは、豈に哀しむ可きの至りならずや。

昨年十二月なりし、高橋生なる者あり、大學病院の記と題して、時事新報に於いて記述したる所ありたり。其の中看病婦の條に曰ふ、

……………老固若より一ならざれども、患者に對して甲斐／＼しく能く看護の道を盡す

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

は、三十五以上五十以下と申す年輩にして、數年間種々の患者を手に掛け、且つ其の心狀の深切篤實なるものに逢へば、患者の意の到る所に看病婦の手は自ら隨ひ、靡姑搔痒、患者をして復遺憾なからしむ。左れば入院して看病婦を雇ふは、患者の爲第一の必要なれども、世間の人氣は奇妙なる者にて、患者を他人の手に掛ければ粗略の處多かる可しとて、家族親戚五六人ゴタ〳〵狹き室內に附添ひ、看護を他人に任せずして種々に患者をいぢり立て、いよ〳〵始末の附かざるに至りて、始めて看病婦を雇ふもの十の六七皆是れなり、無勘辨なりといふ可し。如何さま看病婦は冷淡にして、其の患者に對する痴情に於いては、患者の所親の如くならず、醫師が患者の來客を斷はれと命ずれば、命の如くに之を斷り、飮食服藥唯醫者の立法に循ひ、己れ自ら行政官と爲り、又警察官と爲りて、嚴重に之を執行するが故に、外見無情に似たれども、患者養生の爲めより申せば、斯くなくては叶はぬ事にて、病院は娛樂の地にあらず、療病の處なりと覺悟するものは、此の行政警察の支配を受くるこそ得策なれ。……

是れ亦上等室に在りたるが爲めに斯くいふのみ。勿論親戚五六人雜然として患者の枕邊を擁し、種々樣々にいぢり立つるは不可なり、然れども一片親切の情なき、病院の看病婦に委任すると孰れか可なるかは、吾人少しく斷言に躊躇せざるを得ざるなり。而

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

して素より看病婦なるものは醫師が立法に依り、己れ自から行政官と爲り、警察官となり、飲食より服藥に至るまで、嚴重に之を執行せざる可らず。時としては患者を叱せざる可からず、患者の意に逆はざる可からず、看病婦の面從ほど惡しきはなし。然れども其の患者を叱するは親切の情より叱せざる可からず、患者の意に逆ふも親切の情より之に逆はざる可からず、同じ叱するにも逆ふにも其の間大に逕庭あるものなり。病院は成程娯樂の地にあらず、療病の處なれども看病婦にして果して信實ならば、懇切ならば、之をして娯樂の地と爲すも決して難きにあらず。而して吾人は可成患者をして娯樂の地と感せしめざる可からざるを信ずるなり、何となれば娯樂は醫治上甚だ必要なるものなればなり。

（未完）



○育兒衛生法

醫學士　關場不二彥　述

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

營養(四)

余は前條に於いて牛乳の用法を述べたり。之に尋いで世上の慈母に注意を乞ふべきものは人工乳汁なりとす。

人工乳汁とは乳汁に擬して作れる滋養液にして之を用ゆるは母乳なく、また良牛乳なき時とす。而して輕しく用ふべきものならず。消化器の諸病、殊に下痢などは誠に起し易きものなり。西洋などにては彼の英吉利病(佝僂病の類)の原因となること多しといへり。抑々人工乳汁は不完全のものたるなきを免れず、故に之を濫用すれば乳兒の營養成育は非常に妨害せらるべし。見よ、彼の籠中雛鳥の餌食、果して其の雛をして健全なる天然の飛鳥とならしむるを得るや否やを。然れども惜むべし、世間信を人工乳汁に措くものあり、殊に輓近に至り彼の「コンデンスミルク」なるものを好んで代用する者あり。愛すべき小兒をして腸胃の病に苦しましむるとは夫れ何の理ぞ。其の他兒粉(又乳粉)と稱し、西洋抔にてはチストレ氏兒粉、ゲルベルス兒粉、フレーリッヒ氏、ソフエクル氏、ハルテンスタイン氏、ソール氏等の兒粉あり。殊にチストレ氏兒粉および、リービッヒ氏滋養粉は最賞用せらるゝものなり。「コンデンス、ミルク」は糖分に富みて善良ならず、兒粉は澱粉多きに過ぎて惡しく其の他粉泥(蕎麥せんざいの如きもの)も同

七

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

じく澱粉多く、却て小兒の營養を障害し、彼の恐るべき腺病質(瘰癧肺勞等に傾くもの)を釀す基となるなり、

小兒は生れて三ヶ月四ヶ月を經て唾液の分泌を始むるなり、故に母乳は最も適當のものなり。萬一人工乳汁を與へざるを得ざる場合とても、生れて七十日中には之を與ふべからず。他は健全の母乳を求めて其の乳を與ふべし。

人工乳汁の製法等は好んで人の欲する所なれども、余は之を陳するを望まざるなり。茲に營養乳汁の篇を終るに當り、牛乳用法中吸瓶に付きての規律と、小兒腸胃疾病の注意一二を附加せんとす。

牛乳は稀薄にし、且ッ之を煖め用ゆる事は前條に詳述せり。此の稀釋にせし乳汁は彼の吸瓶なるものに入れて哺乳せしむるなり。まづ、

第一、乳汁は煮たる後之を玻璃瓶(吸瓶)に入れ之に護模管を附して哺乳せしむ。吸瓶も其の管も倶に極めて清潔なるべく又勉めて清潔にす可し。

第二、之を貯へ置くも玻璃の吸瓶に於いてし、清き栓をなしおくべし。英吉利製の護模管吸瓶は用ゆべからず。如何となれば瓶中のもの見えざればなり、清潔になすこと能はざればなり。又玻璃瓶の護模管は平時には其の吸口とともに常に清水に

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

入れ置くべし。

第三、吸瓶は十分乃至十五分時間以上小兒の側に置くべからず。吸瓶に殘りたる乳汁は再び温め用ゆべからず。

第四、吸瓶は用ゐたる後直に淸水にて洗ひ、次の用時まで水を入れおくべし。

初生兒の胃の構造は猶は直くして、動もすれば食物を嘔吐し易し。一日一回位は常の事にして、決して障害あるにあらず。牛乳の用法誤まり、或は吸瓶の不潔にして醱酵酸味ある乳汁は忽ち腸胃を害すべく、實に其の感じ易く、些細の刺擊に應じ易きは驚くに足らざるなり。」母乳を與へても其の量過ぐる時は胃弱を起すが故に、斯かる時には乳を與ふる間の時刻を長くし、或は一日なり一日半なり、乳を與ふるを禁むべし。況んや人工乳汁或は牛乳を用ゐて病を起せしときは、其の食品を停止すべきは勿論なるをや。然らざれば其の時まで用ゐたる乳汁を、なほ稀釋して麥粉などを入れ、或は葛粉を加へ又は「ブランディ」の小量を入るゝも宜し。生誕後いまだ日ならざるに、重湯、飴等を吸はしめ、或は艾艸などを以て胎毒下しと稱し用ゆるは、痛く止むべきことなり。

時としては人乳にて消化不良を來たし、却て牛乳にて來たさゞることありて、發育生長し、時としては乳母の乳にてのみ、身體の營養充分に行はるゝことあり。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

房事の後、精神感動の後は母親は兒に乳する勿れ。消化の不良を來すこと尠なからず。又再び懐姙せる後も兒に乳するを善しとせず。其の成分乏しくなりて營養を害せばなり。

健康なる小兒にありては第九ケ月の終に到り、母の胸を遠ざけしむるを可とす。但し漸を以て其の習慣を失はしむべし。然れども歯生ずるの時、幷に夏月は其の脫習を延引し、又近傍に小兒下痢症の流行する時は、依然として母乳を授くべし。

夏月小兒下痢症の流行せるとき、人工乳汁を用ゆる小兒の死亡は頗る多し。大に注意すべきことゞもなり。

○結婚の栞（承前）

奇玉散人

第五、容貌の美麗なるもの

容貌の美といふ事は、若い殿御や娘御が配匹を求むるに當りて、第一番に目を着ける所です。之に反して父御や母御は、先づ之を度外とするものが多い。が、艶麗花を欺く佳人、俗は嬌容人を悩ます美婦、誰が考へても望ましい、之を度外にせよとは父母の無理です。成程容貌の美しからぬ婦人でも、我妻と定めた後は、又其間に一種の愛情が起り

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

ますから、左迄心にも止まりませぬ。然し妻君を得たればとて、眼の神經も狂いますまい、美妙の情も變化する譯れない。さすればあだし美婦人を見れば、矢張り奇麗に見ゆる筈、奇麗に見ゆれば情が動かでは叶ひませぬ。「ア、我妻もかうした美婦人でありたいもの、斯計りの美婦人を、偖我ものとする人の心は？」ト思ふだけ、已に幸福の成分が欠けて居ります。然し是等は鎖細の事、然し倘能々考ふれば、容貌の善惡は中々大切なる關係がある、骨相學から論じますれば容貌の美は心意の美に伴ふものです、尤も例外も多いでせうが。然し何人の眼で見ても、世界中で容貌の最も美しい人種は何處にありませう？又世界で最も文明の度の高い國は何處でせう？まこと昔しより今に至るまで、常に其位置を占めて居るは今のコーチシアンである、是は實に歴史上爭はれぬ事實です。いかさま是に相違ない。人間の馬鹿と利口は、一目顔と見れば讀めます、心に足らぬ所のある人は、顔に天保錢と書いてあります、目つき鼻つきの善惡、又口の締りの緩急などは、其人の心を示せる造物者の文字です。斯様に論じて見ますると、容貌の見苦しい人は、其心ばいも又善くない。さすれば其母から產れる子も又不器量で、心ざまも惡い。さて親たり舅姑たる身で、子や孫の善くない程不愉快な事はありませぬ、尤も親や舅姑は、子や孫の愛らしさに馬鹿であらうが、癡疾であらうが、忌いと思ふ事はありま

十一

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

せぬ。が、若し子や孫が佳人才子成長して年頃になれば、嫁よ婿よと望む人は幾百人。偖斯る子を持た親の心、如何許り肩身が廣く、又如何許り樂みでせう？守する婆、侍づく下女すら肩身廣く感じます。されば妻は美しくなければならぬ。

然らば、如何なる容貌ある婦人を、美婦人と稱すべきか？是は非常な大問題です。一體人は有情物です、梅や櫻の品定めをする時とは聊か具合が變ります。梅や櫻の美は唯美妙の情だけの事です、眼で見て奇麗に感ずる者が取りも直さず眞の美です。が、人には他の情が加ります、顔貌が美うても、人に好まれぬ者もあり、又左迄美うなうても、人好きのする婦人があります。又さうなければなりませぬ、甲の人がいやと思ふても乙の人が好くといふので、世の中が持て丶行きます、之といふも皆他の情が加れる丶故です。若し之が梅櫻を見るように、唯美妙の情のみに訴ふるものなれば、一人の氣に入らぬものは誰しも之を嫌へます、すると世の中の醜婦人は、生涯寡でゐねばなりません。然し幸に斯る心配はありません。情に適ふた婦人なれば顔の善惡は忘れます。

然し私の爰に論ずる美は、唯美妙の情からの美です、即ち目で見て感じた丈けの美です。其外の事は前の四ヶ條に說きましたから、此中には加へませぬ。さて此單純なる美人是も誠に定め難い、昔しから隨分哲學者の議論もあつて、今尚審美學の大問題です。

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

そこで經驗に富んだ翁媼に言はしむれば、顏は三角であらうが、四角であらうが、心樣の良いのが美人じや、と言はれます。私の家の老哲學者杯も毎々左樣に申し聞けます。是は即ちソクラテスの主義です、ソクラテスは言ひました「美と云ふ事は善、徳及功能といふ事と同じだ、夫故用に立ちさへすれば、糞桶でも美と云ふてよい、又用に立たねば黄金の楯も美とは言はれぬ」と是れはちと嚴し過ぐる、是では私の言ふ純粹の美ではありませぬ。此言の中には美妙の情の外よ、外の考が澤山加ッてをります、所謂痘痕も笑窪と見ゆる御連中です。

又アリストートルの美妙論に「物は大き過ぎたり、小さ過ぎたりしては美に適はぬ、適當なる大さを持つことが大切である」是はいかさま御尤です。

又ピーア、バッフじーアは斯樣に美妙を論じました物は其模範となるべき物に似て居る程美しい、然し此模範と云ふものは極めて罕れにある、今人の顏に就て言へば、美しい顏は後にも先にも唯一つはかない、此他は皆眞に美しいとは言れぬ。然し醜くい模範に倣ふた顏は、甚だ少ふして大抵は美しい模範に倣ふて作ッてある。夫故顏の奇麗なる人程、互の間に似寄が多く、醜くい人ほど似寄が少ない。」ト斯樣に說きました。夫故約めて見れば斯樣になります、「物は何でも一番多く見慣れた物が、一番美しい、夫故美と云

十三

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

事は勝手に人の定むるもので、定まッた標準はない。

此外まだ様々なる議論がありますが、一々爰には陳べませぬ。そこで私の考では眞の美人と云ふものハ、左の個條に適ふたものかと思ひます、然し之は十分考へて出した説にもありませねば、斷言が出來ませぬが、此個條に本づいて婦人を造り出したならば隨分非常な美人が出來やうと思ひます。

第一は躰形の適當です、即ち比例の宜しいといふ事です。女の軀幹の余まり高いのも見苦いものです。尤も時によッては踏臺入らずで便利な事もありませうが、然し一反の布で着物が出來ぬと云ふ様でも困る。さりとて小さ過ぎても不可ません、夫が「お梅ハ何處か」と呼んだ時に、「ハイ此處に居ります」、ト夫の脚下で返辭をする様でも都合が惡い。そこで私の考では、日本の婦人なれば四尺五六寸から五尺、前後の間なれば不恰好な事ハあるまいと思へます。

次は筋骨の發育です。日本や支那抔では、兎角瘦形の婦人を美とします、尤も日本などでも時代に因て好みも違へますが、なべて言へば瘠形の様です。なるほど女は優美なるを貴びますから、瘠形が之に適ふかも知れませぬが、是も比例を失ふては困る。中肉中脊是が眞に適當を得たものでせう。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

次に顏の形を陳べませう、是も適當でなければならぬ。俗に馬面など云ふは長過ぎたる顏を評する惡口、又撞木面など云ふて、顏が橫長くして躰と撞木形をして居るも見苦しい。西洋の婦人ハ顏が長過ぎますから、前髮を垂れて長い額を隱します。日本の女ハ圓過ぎますから、前髮を立てゝ顏を長く見せる工夫をします。さるを近頃日本の娘が躰と撞木形といふ顏を拵ッて居る娘迄が、前髮を垂れて居るとは。俗流行といふものは奇妙なもの！

次は部分の形です、其第一は眉の形です、是は半月形が最もよい、物の美は直線に少なうして、兎角曲線のものに多い。第二に眼、是も薄で裂た樣な細いものは見苦しい。さうして鹽塚の婆さんが閻魔と夫婦喧嘩をする時の樣な大きな恐い目もいかん。此外鼻、口、耳、手足なんと、一々陳ぶるはくだ〳〵しければ省きぬ。兎角適當といふ事に違はぬが肝心です。

第二は身躰の柔滑です、美人は是非共身躰が柔かで、そして滑かでならねばならぬ。バークスの美妙論では、物の美と云ふ性質は滑かなる物に限ると云ふてあります、是もチト偏り過ぎた說ですが、併し婦人の美と云ふ事には、至極適當して居ります。柔滑と云ふ性質があつて、柔和の情を起させぬものは誠に少ない。

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

第三は色の艶美といふ事です、之は國と人種の違ふに從て異へます。アフリカ人は皮膚の眞黑なる婦人を美とするとの事、然し日本でも櫻色とて純白な膚に少し赤みを含んだものを愛します。是は日本のみならず、支那にても西洋にても同樣です。いかさま櫻色は色の美なるものに相違ない。凡そ天然物中最も美なるものは花です、花の最も美くしいものは多くは櫻色をして居る。夫故昔からいつも美人を形容するときには、櫻の花を引き合に出す。尤も西洋の櫻は日本の櫻の如く美くしい花を持ちませぬ、夫故西洋では薔薇をもて花の女王と致して居ります。されは日本でも西洋でも、淡紅色を愛すると云ふ事か明かです。

次は髮の毛の色です、私の考では髮の最も美しいものは、最も黑いものにあらうと思へます。何故なれば顏の色は白きが宜しい、夫故髮の毛の色は之に反射せねばならぬ。總で色の反射といふ事は、美術上の定則です、此定則に背けば誠の美は得られませぬ。されはにや歐洲人の髮は一向に見ばへがない。が、若し彼の白色人種に日本人の如き純黑なる髮の毛を假して御覽なさい、如何許りの美人が出來ませう。此道理より考へるときは、美しい白い顏の婦人が齒を純黑に染めて居るのも美術の眞理に叶ふたものと思はれます。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

以上陳べました三個條を完全に備へた婦人は眞正の美人です。が前にも陳べた如く、容貌の善し惡しは、學識道德などゝいへる外の個條に較ぶれば、左迄價あるものではありませぬ、夫故私は此事を最も終りに論じました

（完）



○餘寒　畠山健

月かげの、さゆるを見れば、ひさかたの、そらには春や、いたらさるらむ。

○名所霞　町原淵麿

朝な〳〵、かよふ千鳥の、こゑはして、いくへかすめる、おはぢしまやま。

○池邊柳　仝

うちなびく、影もみどりの、いけみづに、波のあやおる、あをやぎのいと。

○鶯　島重老

十七

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

うぐひすの、ひとこゑごとに、春めきぬ、もゝこゑなかば、花もさきなむ。

○朝霞　島田豆夫

あさちりの、たつをかくして、ふづくゑの、上までかゝる、はるがすみ哉。

○二月十一日雪ふれり、人々竹柏園にあつまりて

雪の歌あまたよみける時　佐々木信綱

ひゑとりの、鳴音にまどと、あけたれば、にはのおもしろく、雪はふりつゝ。

ふりすさぶ、ゆきをながめて、猫の子の、さむけに鳴くか、あはれなるかな。

むらとりの、聲しづまりて、あしびきの、かたやまはやし、ゆきにくれゆくっ。

しらゆきの、晴れしあしたの、のどけさは、空にしられぬ、春にぞありける。

○いかのぼり　中村秋香

いかのぼりあぐるわらはが、うはの空にこゝろとられて川におちたると、おろかなりとていさゝめこらすめるが、その親はた名利のはづなにこゝろひかれて、ともすればよのうき波にたゞよふよ、みづからはいゝりにをもふにかあらん。　わらはが川におちたる

れはつかにものすろぬらし、手足うちたるまでにて、さてやみぬべし。よのうき波にたゝよひては、家をうしなひ、身をはうらかし、はて〳〵は妻子にさへわかるばかりのうき目をもみるめり、おさましといはんも中々にこそ。かゝる人を、よにめのまへをのみみる人なりといへど、まことは目のまへを見ぬによるなりけり。いとをしきや。

○竹取翁物語講義　第十二條　琴女史

その山を見るに、更に登るべきやうなし、其の山のそばづらをめぐれば、世の中になき花の木ども立てり、こがね、白金、るり色の水流れ出でたり、それには色々の玉の橋渡せり、其のあたりに、てりかゝやく木ども立てり、

○更に登るべきやうなし　は險しく〳〵て上り得ぬ由なり。○そばづら　は其の山の周圍をいふなり。そばはすべて角立ちたるをいふ語なれば嶮岨しき義なり。日を側つといふも角立るなり。○つらは面なり。○花の木ども　一本ならぬ故木どもといふ。植物の諸姿もさる様からの名なるべし。○こがね白金るり色　ハ金色銀色瑠璃色なり。様々の色うるはしき水流出でたりといふなり。○それには色々の玉の橋云々　其の流には色々の玉を嵌合せて作りなしたる橋を渡せりとなり。○てりかゝやく木　金銀珠玉様々のうるはしき花咲きたる木なり。

大意、其ノ山ヲ見ル所ガ大層險シクツテ、一向登リ様ガナイ、ソコデ其ノ山ノ周圍ノ懸崖絶壁ヲ周ルト、此ノ世ニナイ立派ナ花ノ木ナドガアツタ。ソシテ金色ヤ、銀色ヤ、瑠璃色ノ美シイ水ガ流レ出テ居ツタ。其ノ流レニハ色々ノ玉デ拵ヘタ橋ガ渡シテアツテ、其ノ邊

十九

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

ニ照リ輝ク木ガ深山ニアッタ。

ろの中に、此の取りて持てまうで來たりしは、いとわろかりしかども、のたまひしにたがはましかばとて、此の花を折りてまうで來たるなり、

○ろの中よ　照輝く木ども多く立てる中になり。　○まうで　はまゐで。（まゐで　はまゐりいでの省約）の音便なり。　○いさわろかりしかども云々　されはろの中よてうるはしき方にはあらず、いさわろかりしかど、姫のあつらへ玉へるが是なれば、倚美しきを取り來りても、姫のの玉ひしよ違ひて、御心に叶はりなでしかはあん、さ心づかひして此を取來りたりさなり。　さて　は、さ思ひての意なり。

大意、其ノ中デ此ノ私ガ折ッテ來タノハ、大層悪カッタノダケレドモ、姫ガ仰ッタノニ違ッタナラバ悪カラウト思ッテ、（是ガ仰ッタ通リデスカラ）此ヲ折ッテ参リマシタノデス。

山は限なく面色し、世にたとふへきにあらざりしかど、此の枝を折りてしかば、更に心許なくて、船に乗りて、追風ふきて、四百餘日になんまうで來にし、

○山は限なく面白し　うるはしき木、うるはしき流なさありて景色のよきをいふなり。　○世にたさふべきにあらず　譬へん方もなきなり。　○更に心もさなくて　心もさなくて　は心が、りのせられて心の落居ぬをいふ、御子ハ姫を戀ひていかにもして望を遂げんさ思ひ此の山よ來たるも其の爲なれば山の景色などよ心うつりてさ、まるべきにあらず、一時も早く歸らまほしく思へるなり、更よさは姫の戀しさは常さても片時も忘る、ひまなけれど玉の枝を採得ては一しほ戀しさのまして一時も早く逢ハまほしく思ふ意なり。　○四百餘日　はよほかあまり　さ訓むも　よひやくよにちさ訓むも可し。

大意、ソノ山は實に際限ナク、譬ヘ様モナク、面白カッタケレドモ、モー此枝ヲ折ッテカラハ、常ニ戀ヒコガレテ居ル姫ニ一層逢ヒタクナッテ、氣ガセカレテ、中々山ナドヲ眺メテハ居ラレズ、スグニ船ニ乗ッテ追風ノ吹クニ任セテ、四百日餘デ歸ッテ來タ。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

大願の力にや、難波より昨日おん都にまうで來つる、さらに潮にぬれたる衣をだにぬぎかへなでなん、こちまうで來つるとのたまへば、

○大願の力にや　大願の力は心中に大願をかけたる効驗なり念力といふも同じ　にやの下にあらんといふ語を含めり。○昨日なん云々　大願の力にて無事に歸り來つとなり。○さらに潮にぬれたる衣を云々　このさらに　は一向にといふ意なり　さは前にも度々ある如く殊更に厚き心を見せんとて斯くいふなり衣はきぬと訓むべし。○こちは此方なり。

大意、大願の力デアラウ、永々海上ヲ漂ヒ彷ウタケレモ、昨日難波カラ無事デ都へ歸ツテ來タ、ソコデ一向ニ潮ニ濡レタ衣ナドニハ構ハズ、着替ヘモシナイデ、スグ此方ニ參ツタトイフト。

翁きゝて、打なげきてよめる、

呉竹の、世々のたけとる、野山にも、さやはわびしき、ふしをのみ見し、

○打なげきて　翁が御子の一伍十什を物語るを聞き其辛苦を嘗めたまへるに感じて歎きたるなり　○呉竹の　は世よかゝれる枕詞にてくれ竹のよ(節と節との間)といふよりかけたるなり。　されど枕詞とはいひながら下の竹取るに縁ある語を用ゐたるなり。○世々の竹取る　は年久しく竹を取るといふ意なり　○わびしき　このわびしきは苦しきつらき　などいふ程の意と心得べし　○ふしといふも竹の節に通へり斯る縁語を集めてよみなしたるは此の歌の妙なり。

大意、翁カ御子ノ物語ヲ聞イテ、歎イテ歌ヲ讀ンダ、其ノ歌ハくれたけの、世々の竹とる、野山にも、さやはわびしき、ふしをのみ見し。

○一首ノ意ハ、此ノ翁ガ(呉竹ノ)世々久シク竹ヲ取ツテ居ル野ヤ山デモ、隨分艱難ヲ嘗メタガ、夫程マデノ辛苦バツカリハシナカツタ。

是を皇子きゝて、こゝらの日ごろ、思ひ侘び侍りつる心は、今日なん落居ぬる、とのたまひてかへし、

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

二十二

我がたもと、けふかはけれは、わびしさの、千種のかづもわすられぬべし、とのたまふ、

○是を皇子きゝて 翁の斯迄申すを聞きてなり皇子は此をきゝてはや輝夜姫を得らるゝ事と思ひたまへるなり。 ○こゝら は數多きことをいふ○落居ぬ は安心したりといふ意なり。 ○我がたもとけふかはけれは 今までさま〲の辛苦よぬらしたる袖の今日姫よあふ望を遂げてかはけばといふ意なり。 ○わびしさのちくさの數は様々の煩難辛苦なり。

大意、此ノ翁の歌ヲ聞イテ（モー翁ガ斯ウ云様デハ必姫ニアハレルモノト思ツテ）年頃月頃永イ間姫ニアハント心配シテ苦ニ病ンデ居ツタ心ハ今日落付イタト仰ツテ、翁ノ歌ノ返歌ナバヨマレテ、我がたもとけふかはかれば、わびしさの、千種の數も、わすられぬへし、ト仰ツタ。 ○一首ノ意ハ愈姫ニアヘル事ニ定ツテ安心シ、今マデ色々ニ苦勞シテ濡ラシタ我ガ袂、今日乾イテ見レバ、是マデノ色々様々ノ憂イコト、ツライコトモ、忘ラレテシマフ。

かゝるほどに、男ども六人つらねて庭に出來たり、

○かゝるほどよ皇子の斯く宣ひたまへるほどよなり○つらねて 袖を連ねての意なり并び來りたるをいふ。

大意、斯ンナコヲ言ツテ居ル中ニ、男共ガ六人連立ツテ、竹取翁ノ家ノ庭ヘ出テ來タ。



Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

束髪色風琴

漣山人

其一　もめん綿

上　自惚の鏡が浦（其下）

思へば宿帳も粋な奴。――あの人の名を、――住所から原籍から年齢まで、殘らず敎えてくれた。只此上の慾には、あの人が善い人か惡い人か、利口か馬鹿か、――情知りか情知らずか、其邊を確乎と慥めたい。が、これは無心な宿帳へは無理な註文。こゝによん事にはあのお浪と云ふ下婢、此春からも馴染に成て居るお浪の事だから、あの者から樣子を探つて見やう。そして成る事なら、お浪から、お浪に賴むで、お浪の周旋で、どうかあの人に近付たいものである。

斯う一人で考へて居る處へ、例のお浪は臺所の用も濟んだと見へて、茶菓子を持つて來るのを機會に遊びに來た。女同士は打解易く、樣々の話の間に、お綿はカマを掛けて見る。

「方々から來るお客のことだから、中には隨分厄介なお客があるだらうネー。

「ヘー、それはもう貴孃、隨分でございますよ。お客樣のことをさう申しては濟みませんが、

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

事によるとやかましいお客様が入らつしやいまして、こんな商買致して居りましても、腹が立ちます事がございますよ。

「さうだらうチー、中にも書生の客なんぞは亂暴だらうチー。

「さうでございますよ、大勢様で入らつしやいまして、ドン〱お騒ぎなさいますと、ホヽヽヽ、速く歸つて呉れゝばいゝと思います。でも弱い商買でございますから……。

「此頃ハそんなお客は來ないかイ。

「ヘイ、此頃では……。奥に一人居らつしやいますけれども、あの方は又ほんとに温和い方で、時〻御冗談もおつしやいますけれども。

したり！これからが肝腎ト思ひながらも濟ましたもので。

「さうかイ、そんなに温和しい方かイ。

「あんなお方も書生さんにはお珍らしうございますよ。さうして始終なんだか御本を讀んだり御書き物をなすつたり、お勉强なすつて居らつしやいます。

これで大方はあの書生の人と成りはわかつた。わかつて見るとどうやら慕はしさが增し、近よりたさも增長して來たが、流石に氣がとがめて、云ひたい事も云ひ出し得ず其儘話を移してしまつた。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY



Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY



Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

物淋しい洋燈の下に只一人、毛糸業にも飽きが來たから、用意の小說本取り出して、讀みかければ何更空想は眼前にちらつき、吾知らず吾れ小說中の人物と成て、夢とも現ともわからぬ境涯にさまよつて居る。然し不思議な事には、自分はあの書生を、――日比と云ふ若者を、實に愛して居るのだか、慕つて居るのだか、まだ自分にも解らない。只先刻松原で會つた時に、一種妙な感じが起つて、妙に嬉れしくなり。それから同じ宿に居ると云ふとがわかつて、益々嬉れしくなり。遂に其の人となりまで稍々知れて、その樂しさは一層ました。何となくあの男と交際がして見たく、……せめて一言なりとも言葉をかはして見たいト思ふ樣に成て、心ハソワ〱するばかり。最初は兎角案じられた家鄉の事、更に念頭に浮ばず。自分の身すら、吾は病んで、此處へ養生に來たのだと、云ふとすら、どうやら忘れてしまつた。實に戀は變玄不可思議。何處で何う起るものやら、さつぱりわからず。まるで空吹く風の樣なもの、――成る程よく付けた言葉、――戀風とは。

それからお綿は、どうがなして近寄るべき時機とさがさうと思つて、ある時は庭下駄の音を忍むで、日比の借りて居る離座敷の傍を徘徊し、餘所ながら讀書の聲を聞いて、僅かに心を慰めて居た。が、戀れ又もどかしいもの、意地の惡いもの、これほど熱心なお綿に

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

まだ好機會を與へなかつた。

三日ばかりは焦れて暮らした。すると。四日目の夕方、例のお浪はいそ〳〵としてお綿の部屋へやつて來て。

「アノ本間さん、あなたは義太夫はお嫌らいでございますか。

「義太夫、そんなよ嫌いでもありませんよ。それがどうしたノ。

「イヽエ、アノ今晩は手前どもで義太夫のおさらいがございますから、お好きなら聞きにお出で遊ばす樣にッて……。

「アノ家で、さう。……そんなら聞かしてもらひましやうかネ。大勢聽衆が來るノ。

「そんなに大勢でもございませんが、手前共親類の者や近所の者が。

「妾が聞きに行てもいゝのかイ。

「へー〳〵よろしうございますとも。

「さう何時から。

「いづれ後程お迎ひに參りますから。

其儘お浪ハ立て行た。

お綿は元來餘まり義太夫を好まない、寧ろ嫌いな方だ。それがなぜ今夜は好きに成

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

つたらう。飢ては佳肴を選まずとやら。――面白くない義太夫も、旅館の無聊を慰むには、萬更でないと思つてか。――大違い！　これには仔細のあることで、今夜の義太夫の席には、或はあの日比も聞きに來るかも知れぬ。もし聞きに來るとすれば、どうともして近寄ることが出來やうト云ふ、投機的の希望がお綿の心中に起つた。のちお綿は今夜の中に、桑中の期を求めやうと云ふ野心を持て居たので……。さればこそその時刻か待遠うでたまらず。お浪の呼ひに來るのを――、まだか〳〵。

表座敷の方で三味線の調子をあはせる音。やがて廊下に足音さしてお浪は迎ひに來た。まち設けたお綿、わざと落付きはらつて案内されて行く。見れば何時の間に着更へたか、銘仙の綿入に鼠縮緬の羽織、髪も櫛目正しく、お白粉こくつけね、唇には紅をあしらい。まるで歌舞伎座へでも出かける意氣込み。――是も誰故？

＝どうぞ此方へ＝、案内につれて通つたは、滯留客の爲に設けられた別席。赤い毛布一枚敷いて、上に眞鍮のじかみ火鉢一個。此處へしとやかに坐はつて、まづ四邊を見まはせば、正面の床の間の前に床几一ッ据へて、上を毛氈で掩ひ。眞鍮の燭臺二ッ。形の如く高座が設けてあり。それから二間ばかりぶつ通して聽衆の居る處。――見渡せばいづれも土臭い百姓や、磯臭い漁師――これでも義太夫がわかるかと思ふばかり。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

暫時すると、またお浪を先へ立て導かれて來た一人の若い男。人をかきわけてズッと赤毛布の上へ通つた。見れば案の如く……。お綿はもう飛びたつ心、心の中では手を合はして、南無義太夫大明神！お浪大菩薩！

しかみ火鉢を間に二人さし向ひっ——義太夫の評判から口が綻け、互に名乘り合て、二言三言かはして見れば、思つたよりか生むが易く、存外氣輕な男で、うち解け易い處からお綿は充分乘り氣になり。義太夫もなにも身には入らず、田舎者と侮つてか、殆々傍若無人の振舞。なんだか話し合つては、一寸打つまねをしたり、手を押さへたり。ホ……ともらす高笑ひ。あたりの者は呆氣に取られて、——たまげたもんだ。

此晩を馴染めの抑もにして、そのあしたからはガラリと變つた二人の調子。朝飯がすむとやがて日比の方からお綿の部屋へ遊びに來て。

「本間さん、昨晩はどうも失禮。

「オヤ、よく入らつしやいました。さあどうぞ……ほんとに昨晩は妾こそ失禮申しました。初めてお目に掛つておいて、ホヽヽ。

「どうでしたあの義太夫は、面白かつたですな。

「ほんとに面白い義太夫ネー。でも皆は感心して聞いて居ましたヨ。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

「鳥なき里の蝙蝠とは、ほんとに此事です。それはさうと貴孃那古へ入らしつたことがありますか。

「那古、那古の觀音ですか。イヽエまだ參りませんよ。

「ろんならお伴致しましやう、丁度今日は天氣もよござんすから。

「アラ、郎君そんなら連れてつて下さりますか。

「エヽ、御案内致しましやう。

「まア、(嬉れしいチー)妾はほんとに此二三日クサ〳〵してたまらなかつたのですからちつと散歩でもしなければ……。

「あなた入らつしやるなら、私は一寸支度して來ますから。

「そんなら其間に妾も……郎君御迷惑でしやうチー、ホヽヽ。

「イヽエ。貴孃こそ御迷惑なら、無理に勸めやしませんよ。私ハ一人で……。

「アラたんとおいぢめなさいまし。ホヽヽ。

なんとした事だ。さても不思議なは昨夜の會話。何處を何うしてかくまで親しくなつたものか。兎に角一晩の中に、富士の山が出來たほどの珍事。――女も女なら、男も男。さては此男も餘程の曲者と見へた。

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

お浪は茶を入れてお綿の部屋へ來て見ると、今身支度最中

「オヤ、何方へか入らつしやいますのですか。

「ハア、アノ那古まで、

「那古まで……お一人で？

「イヽエあの日比さんと。

「オヤ……日比さんは前から御存ぢでございますのですか。

「ハア……よく聞いて見れは、自家の親類なんだヨ。

「ヘー、まア……妙なこともございますもんですネ。

お浪は呆れて茫然、お綿一人ニコ〳〵。



Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

○ドクトル、ベルツ氏の存娼論

吾人はドクトル、ベルツ氏が現今の大問題なる娼妓の存廢に就き、大日本衛生會に於いて一場の演説を爲さるゝを聞く。而して其の筆記の大略を二月廿四日、廿五日の讀賣新聞紙上に於いて見るを得たり。議論の如何に依りては、反駁の勞を取らざる可からずと嘗て思居しに、實に案外の論にして、斯かる價値あるものにあらず。

氏は日本の今日を以て非常に混沌なる社會となし、娼妓の存廢などよりは他に議す可き大問題に乏しからずとなす。而して氏自ら之に就き一場の演説を試みらるゝも可笑し。氏は又廢娼論を以て基督教徒のみ唱ふるものと見做されたるが如し、是れ實況を知らざるの甚だしきものなり。神戸に公娼ありしより梅毒患者の減せざるを以て、鐵道開け、滊船の設けあるに依ると爲す、實に窮論といふべし。

要するに氏の所論は存娼論としては實に弱し。然らば娼妓改良策として之を見んか、尚吾人は其の可なるを見ざるなり。顧ふに外人崇拜熱の流行する四五年前なりせば、斯かる議論にても或は世人の首肯を得たるなるべし。然れども其の熱の殆んど零度に歸せんとする今日に於いては誰かまた斯くの如きものまでに耳傾くる者あらんや。吾人はモ少し氣骨ある議論を試みられんことを切望に堪えざるなり。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

○庚寅新誌第一號　芝公園地第八十四號庚寅社發行

表紙の体裁已に非常に無頓着なり、發行の旨趣また極めて無雜作なり、其の載する所其の論ずる所、凡て無頓着無雜作ならざるはなし。此の春風の駘蕩たるに乘し嫩草の地を抜くが如くに顯はれ出づる幾多の雜誌、粧飾百方、皆人意を迎へんと勉むるに當り、斯かる無頓着無雜作の雜誌を得たるは吾人大に喜ぶ。

○小文士第一集　神田區猿楽町十番地小文士會發行

目を削りて小文士第一集を讀む、其の載する所の篇々、概ね議論老成、筆路暢達、味ふ可き所あるを見る。乃ち知る、此の小文士は何時までも小文士ならずして、大文士たる決して遠きにあらざる可きを。

○花たら誌第一號　京橋區和泉町五番地艷文社發行

夢文子の編輯にて發行さゝる、此の花たら誌ははな〳〵面白きものなり。世間幾士の花客、涎たらして見るもの多かるべし。

〇「むこえらび」の盲評を讀みて　N. H.

文明の母第十九號に佐々木櫻雲なるものあり、都の花の附錄「むこえらび」の評をかゝれたり。盲評といはれしが如何にも盲評、一つとして當る所なし。斯かるものに彼此いふは如何にも大人氣なきことなれども、今や批評社會は容易ならざる混雜なり、小說一二冊讀みしものまで横槍入る。余之を患ふる久し故に聊かむこえらび」の盲評に就きても、自ら盲になりて見逭す能はず。

余も勿論「むこえらび」を上作なりといふにあらず、否平々凡々より又數等を下つたる無茶苦茶小說なりと信ずるなり。然れども櫻雲氏が彼此いふ處は、皆中らざるものなるを奈何せん。諷刺小說——こんなものまで諷刺小說なら、如何なるものにても諷刺小說なるべし。浮華——浮華とさへいへばよき事に心得、今日の『でも批評家』は能くいふ。雲掩ひ月朧なる夕——此の邊の處、一として肯綮に中るものなし——私の數馬さん——これは言語に顯はしたるものにあらず、事々しく論ずる愚さよ。堂々たる交際官試補——堂々とは何事ぞ。出かされたり、〳〵——「むこえらび」の片無し小說、少しも出來したる處なし。アヽ斯く數へれば紙損なり筆損なり。

而して此の盲評滑滑的に出來てあり。此の頃滑稽の批評流行すれども、決して爲す

三十三

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

べきものにあらず。シェークスピヤも滑稽で評さるれば、お室君よりも劣ることもあるべし、櫻雲君の批評も滑稽で評さるれば、マコーレーより上手なりといはれん。人を評するに滑稽では失禮なるべし。況んや○○の如きものに於いてをや。

○風流柳ごし、と 喜園圓とを讀みて。

大阪 琴水女史

淡泊の二字、是れが獨逸文學の眞相ですか、否寧ろ簡略、それが漣氏の專門ですか、文庫の思案氏ハ常に忍月氏の小説を淡泊々々とて冷評されますが、なぜ其の最も近くの漣氏の小説に氣が附かれませんのです、假令柳越にせよ、癡子よせよ、其れ喜閑圓や、アヽ夢、と比較すれば何うです。敢て澤山の人數や回數の多いのが小説の卓絶なものでない。露伴氏や紅葉氏や美妙氏の世評の能のハ其故です。

今新小説第十八卷から廿四卷までに載せられた、風流柳ごしと喜國圓、共に淡泊淵洄な作ながら、趣向ハ双方少しも變って居ません。前者は和樂を客とし失策を主としたもの、后者は失策を客とし和樂を主としたものです、前者は規模の小さい丈け面白味や感情は深く、后者は結構の少しく大きい丈け、其の感情は薄い樣です。前者の和樂を客とし失策を主とせられたのは、非常よ其の價を増して讀過の間、如何にも風流の氣韻が有る樣です。后者は失策を客とせられたのハ、非常にこの小説の價を減じた樣です。前者ハ規模も趣向も少さい丈け、其れ相當の体裁を供へて、あまり短所もない樣ですが、后者も其趣向と結構とが大きい丈け、丁度其れ相當の瑕があります。

忍月氏のこの文体は是れ迄兩三回拜見しましたが、漣氏のこの文体ハ、是れが初めです。誰かでした、氏の文庫に顯られた娘作者を許して、あれは言文一致を駁したので有る、と云はれましたが、私はさうハ思ひません。なぜです、それハ漣氏が其れより後今でも言文一致体を用いて居られます。抑も是れハ何故に喜閑圓よ限りて從前の言文一致体を捨て、馬琴樣否寧ろ春の舍風を用ひられたのです。成程其の發端の上の初めのけしきなぞ、如何にも美しい文句も有ます。が、甚れを、六章三十五頁と比較して見れは何うです。愛䕃、

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

ぬ、の字の韵を押されたのですか。私しハ寧ろ、五月鯉や、花嫁御の樣な文体の方が能い樣に考へられます。

また私しが思ふに、喜團圓八九章や、大尾の章の松野に關係の條、あれは贅句でハ有りませんか。抑もこの喜團圓の中、松野の失策を加へしため、幾何の價格を增しました、これだけの品位を上げました。　假令一歩を讓りて、失策を述べられたのは兎も角もとして、其の記叙法、則ちなぜ其失策を作者の口から述べられなかったのですか。　金谷が履歴話し、其れも少し可笑しく思ふ位、殊に香津が物語、しかも其の玉江孃に松野が横戀慕、其れを其の口から物語る、實地にはずれた、人情にもさッた事柄です。　其の外發端に上下有りますが、あの下の方ハ、あれでも喜團圓の發端と云へますか、否寧ろ結局でしやう。　また電信の間違ひなぞも一寸受取られぬ話です。

フト喜團圓に附きて考へて見ますに、固と立案の用意は悲哀歡樂、兼備の作ふのでしやう、推すれば隨分さうもありますが、讀んだ所だけでハ決してその感念ハ起りません。

東雲新聞でも何日かさう云ふことを申しましたが、この漣氏の小說には、何れにも一種の偏り過、一個の思ッた寓意が有ります。　が、殊更確然と申しますまい、挿圖の第二葉を見て隨分感情を起す人も有ろでしやう。　去かし要するに此れ等の作は、とても〳〵北邙散士の所謂小說とは云へぬものです。

序ながら伺ひます、この喜團圓の松野武利、偕ハ柳とし の烏羽井錦之丞其人の心の中には、一種口惜しい、悲しい唯ーとも云ふへき意志か有ろでしやう。　抑も其の意志ハ獨逸小說の華さか云ふ悲哀の分子を含んて居ますか。

批評さ云ふ六ケ敷もの、とても〳〵得致しません、無學無識な私、それさて、烏や虫でも歌咏むと誰やれが曰ひました。　四尺四寸の躰、無神經ではありません、只我胸の思ふこさ、差かしながら打明かして皆樣の敎へを待ツ斗りです。

節分におくる、八日、紀元節と云ふ芽出度日、
こたつの下に冬籠して、　琴水生

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY



○熊野の母の文　附熊野の墓

鶯陵迂人　山下重民稿

熊野は遠江池田の長の女にして、容顔いとうるはしければ、平の宗盛の寵を得たり。然るに其老母は遠く別れ居るをうきことに思ひ、其よし消息したりしかば、熊野は東山のさくら狩に伴れるゝも樂しまずして、

　いかにせむ都の春もをしけれど、なれしあづまの花やちるらむ、

と詠じ、遂に暇を給はりて歸りしことは、人の皆知る所なり。而して老母が當時贈りにし文は知る人稀なり。余燈下雜記といふ隨筆中に之を得たれは左に掲げなむ。

甘泉殿の春の夜の夢、こゝろを碎きしとなり、驪山宮の秋の夜の月、かぎりなきにしもあらず。末世一代敎主の如來も生死のおきてを遁れ給はず。過にし如月の頃申せしごとく、何とやらむこの春は。年ふりまさる朽木櫻、ことしばかりの花のたにまち

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

もやせしと、心よはき老のうぐひす、おふこともなみだにむせぶばかりなり。唯しかるべくは、よきやうに申し、しばしの御暇を給り、今一度まみへおはしませ。さなきだに親子は一世の中なるに、おなじ世にだにそひたまはずば、孝行にもはつれたまふべし。たゞ返す〴〵も命の中に、今ひとたび見ゑまいらせたくこそ候へ。

老ぬれば、さらぬ別れの有といへば、いよ〳〵みまくほしき君かな。

右の文眞僞は知らず。且讀にくき所あれども原文のまゝ掲げたり。讀者しか心得られむことを請ふ。又平家亡びて宗盛囚れとなり、池田宿にやどりしころ熊野涙ながら

もろともに思ひあはせてしほるらし、あづまぢにたつ旅のさごろも

と詠じたりとなむ。又熊野の墓は池田宿攝取山行興寺といふ時宗の寺に在り。紫石の塔婆にして、珠月院貞玉法女建久九年五月三日と鐫す。山崎闇齋が池田ノ宿ハ舊ツ天龍ノ上、湯谷ノ墳殘ル林藪ノ中、とあるは是なり。老母の墓は、同所に在りて善證院智榮比丘尼建久元年四月三日沒、と鐫するよしなり。一歳遊行の二世他阿上人眞教、國めぐりの時此に宿り、熊野が菩提を弔ひ、藤澤流の寺とし之を池田道場と呼ぶ。此寺の什寶に蜷川氏の書れし熊野の謠の繪傳あり。文字は近衛流繪は土佐風にて古雅なり。此熊野の墓の一段は、專ら東海道名所圖會に據て記す。同書には法名を載せず。法名は前の燈下

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

雜記に據れり。但後世に附たる者なるべし。熊野ハ從來音讀にてユヤと呼び來れども、もと熊野權現に祈りて設けし者なればへとクマノと呼ぶ方宜きか。

○一學生KM孃へ

鐵筆將軍

一學生KM孃なるものあり、端書にて次の言を送らる。

咄文明の母記者よ、汝が眼中には一滴の涙なきか。咄愚者よ、汝等の如き愚物にして、何ぞ能く妾等の如き大任ある女子を助けて、之が任を全ふせしむるを得んや。否々只一片の野卑なる射利的の精神を以て、此の雜誌を社會に出だせしならん。妾は之を思ひ出づる毎よ、切齒扼腕慷慨悲憤の至りに堪へず。噫妾は汝等の如き婦女子の仇敵たる記者を筆誅せんと欲して、筆を手にすれども胸悸き手戰ひ、妾が思想の萬分の一を記する能はず。故に幸に唯其の論旨のある所を倘は辨解する所あれば、次號の紙上に之を載せよ。

妾今日文明之母を手にして、鐵筆將軍の「でも淑女」といふ小説を讀み、終に茫然自失せること久し、何となれば卷中の淑女山川孃の劣情の爲に終に一身を亡ぼしたるを見たればなり。妾は實に山川孃の爲に悲み且つ歎く所、否我國女學生の爲に、女

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

子教育の爲に大息する所なり恐くは世間妾と同感の姉妹多からん)然るに記者はとぼけしか寐ぼけしか(めでたし)とは何等の怪筆ぞや。嗚呼此の怪筆を論破するの責任ある先輩者が却て此小說と喜ぶとは果して何事ぞや。妾は思ふ文明之母は斯の如き婦人の女子社會に在るを歎じて之を矯正せんが爲に出で來れるものならんと。然らば何故に謹んで弔詞を述べざる、否却て之を喜ぶとは嗚呼德義は……。妾は赤貧なる學生なり、一錢尙は惜むべし、然れども苟も妾等姉妹の爲ならば……。

鐵筆將軍之を讀んで果して如何なる感情ある。(圏點も原の儘)

余は之を讀んで如何なる感情もなきなり、唯文明の母も斯かる熱心なる讀者を得たると嬉しく思ふのみ、余が拙著も斯く細かに咀嚼し吳るゝ讀者あるを有がたく思ふのみ而して余が拙筆も斯く讀者の感情を動かさしむるに足りしやを喜ぶのみ。若し夫れ(めでたし)の結語は如何なる意味なるやは玆に辨解するにも及ばざるべし。

○米國勞働婦人の現況

現今英國に於て倫敦其他の大市に於ける婦女勞働の狀況は大に世人の注目する所なるが、右に就て米國勤勞上の第四年報を參觀するは甚だ有益の事なり。其報告は統

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

計及び其他の點より、米國の聯邦に於て手工上の勤勞に生活を立つる勞働婦人の現況を蒐輯したるものなり。　其調査は現今婦人の從事する工業中三百四十三種の勤勞に渉るものなるを以て、其狀況を示めすと全く盡せるものと謂ふべし。　右の報告に關しては位置氣候を異にして、廣く全米國に散在せる二十二大市より、各々其實際に調査する所を出したるなれバ、實に其統計上の結果に價値を添へたり。　其調査し得たる勞働婦人の全數一萬七千四百二十七人にして、即ち調査に附したる工業に從事せる全國婦人の總計に對する百分の七に就て、狀況を述るものなり。　其調査の程度は最下等の勞働に迄及ぼせりと雖も、裏巷に住居して眞の勞働婦人と爲すべからざるものは調査中に加へず。　而して此報告たる、其事實は率むね調査役として雇使せられる婦人の蒐輯したるものなれば、殊に實際を知るの効力ある者にして米國婦人が困難なる勞働に耐るを證するに足る。　此報告は啻に米國勤勞上の事實を網羅するのみならず、全國勞働婦人の風俗を爲せる事情をも概括して示めすものにして、就中紐育は勞働婦人の狀態酷だ倫敦に類似し、其社會に惡風の行はるゝことも亦同し。　唯た紐育の婦人勞働社會に於る狀況の倫敦と異なれるものは、借家住居と外國勞働婦人の續々移住して此地に集ることと是れなり。　其移住婦人の多きが爲に、米國婦人の勞働に影響を生じ、今日に於て

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

は上等の部類に屬する勞働婦人と雖も、獨立の家宅に住居する者少れにして、表店の前部にも足らざる狹き下等の裏長屋は、前後相望んで立ち、溝渠の構造惡しくして、下水の流通宜しからざるが爲に、最も下等の長屋に至ては、諸種の臭氣鼻を襲ひ、斯る處に軒を接して雜居する勞働婦人の貧苦は、面り之を實見したるに非ざれば、實に信ずべからざる程の有樣なり。斯る陋屋に住居しながらも、家主の爲に非常なる借家賃を貪られ、衣物食品の價甚だ高くして、且其極貧者中には勤勞の市場より拒絕せられ、職業を獲ずして其日を送る者多し。然るに倫敦に於ては最も陋巷に住する勞働者と雖も、此二點に於て大に勝る所あり、即ち最下等の地と雖も溝渠下水の疏通よく、衣食の費も前年に比すれば更に低廉なること是なり。然れ共此憫れむべき境遇の中に在りて、紐育の調査役が稍や慰むべき事情を發見したるは、最も貧窶なる借家中に於て奢侈の狀況あるを見たることにして、室内に花氈を敷き清潔なる寢床を設け、笹縁付きたる垂帷と張り、壁間に繪畫を懸け。大小の洋琴其他裝飾器具を備ふるを見たること尠なからず。即ち斯婦人勞働社會に於ても、大に他の社會の風俗に倣へるの證なり。今日勞働婦人の心術を改良せんと欲すれば、先づ裏店住居と廢せざるべからず。而して少壯の婦女が外國より移住して續々紐育に群集することも亦其惡風を造るの一原因にして、他境に在りては其

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

本國に居ると異なり、何事にまれ不便不自由なる事多くして、自然長く職を獲ざるとありて、囊中空乏を告ぐるより、遂に惡風を醸生するに至る。 此惡風に關しては英國に於て矯正の策を講ずる者多きと、米國に於ても亦同じと雖も、惜哉該報告中には其盡力の蹟と認めず、凡て各國の勞働社會に親接せる人の善く知る如く、米國の調査員も亦斯外面の惡風貧窶の中に、頗る剛毅清廉の志操を守る者あるを見たり。 殊に上等の勞働婦女は、其服裝態度に於て、幾んど衣食足りて禮節を知れる貴女に比すべきものありと爲せり。

紐育勞働婦人の概況に關し、其傭主と相對する關係を言へば左の如し。

彼等が傭主の爲に苛酷の待遇を被ると少く、互ひに誠實親愛を以て通則とし殊に外國より移住せる勞働婦女は、一意傭主の感情を傷はざらんとを慮りて、汲々たるが如く、而して最も親切に勞者を遇する傭主は、上等のジュー人なり。 或る工場に於ては各週雇の婦女若し遲參することあるときは、半日間場内に入るを許さず。 或は些少の時間と雖も、計算して賃銀を引去り、且之に相當の科料を課し、從量仕事の勞働者は、出場時間に關して大に寬待を受くと雖も、傭主は大に其緩慢不定の習慣に不平を唱ふ、今日は職工使役條例の行はるゝが爲に、夏季に於ては被傭の婦女賃銀を取りつ

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

ゝ半休業を爲すの姿と爲り、殆ど前年未聞の特權を有するに至り、且年一年に就業の時間を短縮するにも拘はらず、婦女就職の位地ハ益々增加し、且工場愈々建設せらるゝの傾きあり。(年報摘抄)

之を要するに該年報に於て、紐育婦人勞働の狀況の他國に勝る所あるを示すは、唯だ其休業時間の多きに在るのみにして、其實格別の利あるに非ざる事を證せり但し紐育に移住する勞働婦人が、其本土なる倫敦に於て就業時間の更に長きは、是れ甚しき競爭の結果にして、殆ど之に勝つの望なきものなり。(日本)

○餘興

○考物

1 或人或少女に其の年齢を問ひしに、少女夕日を指して曰く、妾の年はあの太陽の方にありと。果して何歲なるか。

右　福島　茅根金彌氏出題

2 或人途上にて偶々學校生徒と同步し、其の名を問ふ、生徒曰く東西南北より差支なく讀み得べしと。其の名如何。

右　埼玉　遠山正策氏出題

3 君其の籠の中のものは何ですか。是れは動物さ。問何といふ動物ですか。是は十さ。十とは何です。鳴呼ジレッタイ考へて御覽な。

右　下總　水原居士氏出題

4 一夜木の上に不具の鳥が啼いて居りました。なんでせう

右　信濃　古内北洲氏出題

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

5　一ッの手と十一の口ある妙な人があります。何でありますか。

右　丹後　河田力藏氏出題

6　或人に我々を惠むものは何かと問ひましたら、左の歌様なものと書いて出しました。字では角、詩にては圓く、あつければ、長くさむければ、短きものぞ是れ。何の積りでせうか。

右　麴町　四知堂女史出題

7　○○に○○○○○○○○○○あり。何と解するや。

右　志摩　中川德松氏出題

右七題の考物を悉くお當てになッた御方には、例の通りお望の本誌一部進上。

○前々號の考物の答　解答者百三十二人悉く御當てになッた御方百十二人。

1　硯蓋　　2　田樂

3　山吹　　4　前號に出した通り取消し

○注意。古い考物を自分の考い出したものとして送らるゝ御方がなくもない様です、雜錄記者も勿論考物通の人物ではありませんから、何れが古いもので、何れが新しいものか、之を見分けるとに苦しみます、人に彼(あれ)は古いと言はれて氣のつく位、以後古いのは御免を蒙ります、諸君も古いのを出して御愉快でしやうか。

前號へは飛んだ間違をしました。

正　誤

(1)　の東京の人は一を聞きて十を　は　東京の人は一を聞きて十二をの誤

(9)　の成る鳥　は　或る鳥の誤

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY



○婦女子の爲に之と賀す

窈窕たる婦女子が、口角沫を吐きて、現任大臣の適否を論じ、條約改正の斷行中止を議するを聞き、誰か眉顰めざるものあらん。人は兎に角、吾人は眉顰むるのみか、實に嘔吐を催さゞるを得ざるなり。されば吾人は常に婦女子が政黨などには可成遠かり居るべきを主張せり。此の度大井ゆき子が政黨に加入せんとして聞屆けられず、又一般に婦女子及び未丁年の男兒は認可せられざる樣になりたるを、世には隨分議するもの多し。然れども吾人は婦女子の爲に、未丁年の男兒の爲に深く之を賀するものなり。

○或は風或は雨

或は風吹き或は雨降り、又好晴の日なきは此の頃の天象にあらずや。嗚呼九十の春光も斯く終るかと思へば、轉々悲しむ所のものなくんばあらず。而して此の天氣を以て形容せらるゝもの豈獨り政界の現象のみならんや、政界の現象のみならんや。

○女學生の醜聞

と題して、讀賣新聞は其の貴重の紙面殆んど一頁を、之が爲に費すもの既に十有餘日。吾人は之と讀み、臭氣フンフンとして鼻を冒し來るを見る、實に多讀に堪へざるなり。然れども吾人は敢て讀賣新聞記者に望む所の者あり。斯く貴重の紙面を費さるゝは徒に奇文を弄して他を非毀せらるるにもあらざる可し、「人も体見て吾が体直せ」の主意に出でしものに外ならざる可し。然らば何ぞ明瞭に學校といひ、學生といひ、一々之を署名せざる。吾人は曖昧の事を、曖昧の筆にて曖昧に叙し去るの實際に無益なるを知るなり。

○不祥の詩

欲廢公娼事未成、誰圖空頭誤才英、
春風吹送梅花氣、已及文明女學生、

又

誰使蕩兒事綺情、弄娼玩妓又童兒、
一場怪話虚邪實、驚殺人間幾父兄。

又

小園晝靜絶塵埃、無限春風吹暖催、
芍藥一枝紅尚嫩、偷香早有蝶兒來。

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

又

偸香有韓壽、 執燭少雲長、 花外蝶眠月、
雨邊鶯宿楊。

又

讀書知字亦何成、 修得萬能忘一貞、 雪案春深
方駘蕩、 螢窓夜暗不分明、 襟邊蛺蝶飛無影、
髩上薔薇落有聲、 稗史在床看既熟、 如今演出
卷中情。

人有り來つて此の詩の妙那邊に在るやを問ふ、吾人起ッて青山を見る。

○女學生の遠流論

女學生の醜聞非常に熾んなるの今日に當り、袖手傍觀するに忍びずとて、之を未然に防ぐの方法を計畫せらるゝ者多し。其の中の最奇なるものは、女學校を繁華の地――少壯男兒の徘徊する處に置くは、頗る不得策の甚だしきものなり。故に昔時ならば鳥の通はぬ八丈島か、小笠原島に移置するに如かず。苟も斯くすれば、如何に輕噪の性質にても、身を誤るの物体なければ、其の輕噪も發揮するに由なかるべしと。

○臺場なるかな臺場なるかな

臺場なる哉、臺場なる哉、女學校を移置すべき地は臺場なるかな。小笠原島八丈島に遠流するも不可なかるべきも、其れにては餘りにむごし、臺場位の所尤

も適當なる可し。若し然かせんか、築地品川邊に資本金十萬圓を以て、品海郵船會社なるもの忽ちにして起るならんと。頻りに預言者めきたることを言ふものあり。愈々出でゝ愈々奇なりと謂ふ可し。

○笑ふ可からず

右の二項は勿論一笑に附し去るべきものなれども、苟も斯かることを言はるゝ女學校、女學生、女敎師はマサカに笑ひても居らざる可し。吾人は實に氣の毒に思はざるを得ざるなり、氣の毒に思ふと同時に大に猛省せらるゝ所ろありて、此れ等の浮説を消了し反對の評判を得るに勉められんことを熱望するものなり。

○人姓名詞

西洋の文法書を繙き見れば人代名詞なるものは唯われ、なんぢ、かれといふに過ぎざれども日本に於いては古來よりの風習にて人の彼我の稱呼、記臆に勝えざるばかりに夥し。頃日文學士上田萬年氏が取調べ羅馬字雜誌に掲げられたるを覩るに實に左の如し。(然れども吾人は是にても未だ大に足らざるを知るあり。)

第一人稱　あ、あれ、ぼく、じぶん、こッち、こち、このはう、まろ、み、みづから、みども、おいら、おの、おのれ、おれ、わし、やつがれ、せつ、せッしや、せうせい、それがし、てまへ、てめい、わ、わがはい、わ、なみ、わら

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

は、われ、われ〱、わろ、わたくし、わッち、わちき、わたし、よはい、よ、ぐ、ぐせつ、ぐおい、ふせう、せうし等にして其の他天子は自から、ちん、と稱へ人民は自ら、しん、といふ。

第二人稱　あなた、ごへん、ごじぶん、ごじぶんさま、いまし、かなた、きでん、きこう、きくん、きみ、きんじ、きさま、ぬし、おこと、おまへ、おんまへ、おまへさま、し、そち、そッか、そこ、こなた、そのはう、そのもと、そもじ、こち、こなさま、こなさん、こなはん、こなた、このはう、こんた、めんと、みまし、な、なんぢ、なれ、そッち、そさま、わどの、わなみ、わがみ、わごりよ、わぬし、われ、わおや、わせんぢやう、うぬ、うし、其の他尊稱には、ろんくん、たいじん、せんせい、天子には、へいか、貴顯方には、でんか、かくか、きか等。

第三人稱　あなた、あれ、かなた、かれ、きやつ、おんまへ、おまへ、おの、しやつ、そいつ、それ、あの、かの、その、等。

○本邦男女婚姻の年齡

昨年九月十七日、醫科大學の敎授三宅秀、大澤謙二緒方正規、三浦守治、濱田玄達、片山國嘉の諸氏、本邦男女婚姻年齡取調委員の命を蒙むり、同九月十七日に至り報告書を帝國大學總長の許迄で差出されたるよしにて、醫學會雜誌第一號に出でたり。今普通衛生雜誌に抄録したるを左に轉載すべし。

我國の男子及女子婚姻をなして姙娠するも其父母の健康を害せず、又其子の健康をも害せざる年齡は大凡幾歳許をもつて其最早限となすや。此問に答ふるには、まづ女と男とに別けて、いひます。○(天)女子の婚姻年齡の最早限を定めんには、まづその生殖機能發動の時期と産蓐實驗との二件を詳く知らねばならず。しかるに産蓐實驗は材料に乏くして答辨とすることが出來ぬから、たゞ生殖機能發動の時期と身躰發育の程度とに依て答案を立ねばならず。生殖機能發動の時期は即ち月經始めて來るの時で、醫科大學助手榊順次郎氏が千人の女子に就て調べたる所によれば本邦女子月經の初發平均年齡は十四歳八ヶ月であります、又同敎授濱田玄達氏が病床日誌より撰出して調べたる千○十五人の女子の平均年齡もまた十四歳八ヶ月であります。

此年齡は西洋の女子に於ける月經初發年齡（十五年）と大差はありません。身躰發育の程度については三輪德寛氏及高等師範學校女子部の調査により、女子十六歳より十七歳の間大凡滿十八歳をもつて身長の增加殆ど停止するの時期と看做して大過はありますまい。右の理由にて、本邦女子婚姻年齡最早限は十四年八ヶ月と滿十七歳との間であります。

四十七

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

(地)男子に於ける生殖機能發動期は女子のごとく較著でありませんが、西洋學者の說によりてまづ通常女子より較々晩るゝものとして、大凡十六才より十八歲の間にあるものと假定しても不可はありません。

身躰發育の程度に就ては、古川榮氏調、明治生命保險會社調、大學生に就ての調、三輪德寛氏調等によれば男子身長の增加は二十二歲に至りて全く停止するものであります。右の理由にて、本邦男子婚姻年齡最早限は大凡十六歲と十八歲との間であります。

右は醫學上確實であると看做すべき材料から立案したものでありますが、さて明治十九月十二月三十一日調査帝國民籍戶口表を調べて見ますと、實際男子は十七歲以上、女子は十五歲にて婚姻するものが多であります。

故に男女婚姻年齡最早限は、

男子　滿十七歲
女子　滿十五歲

と定むるが適當であります。

但し男女の婚姻するに先づ身躰及精神の充分なる發育を要するものでありますから、夫婦及生産せる子女の健康保全と望むには女子二十歲以上男子二十五歲以上を以て結婚の最適齡と致します。

○聞き捨てにならぬ話

一月一日より聖書の講義會を開き熱心に耶蘇教を信奉するとは高等師範學校の女子部生徒諸氏なり誠に結構なることであるや否やは吾儕の知らぬ事なれども餘り信仰熱が過ぎて大切の科業を廢されぬ樣望ましきなり教會堂へ出入することをは自由にするとか風說あり出入の意を任すことを得る爲に宗教を餌にして……醜聞でも立たぬ内なんとか取締法を設けられたきものなりとは貴女之友第六十七號の報ずる所なり吾人はマサカと信を置く能はざるなり若し果して眞ならば聞き捨てにならぬ話にこそ。

○聯合唱歌會

は專ら生徒の健康を補ひ、聽官の發達及發音の練習を計り、且性行上大に優美の心と增加せしめんが爲に、深川區の私立小學校主小西、宮下、大谷、福島、松村五氏の發起にて、毎月一回づゝ同區中川町私立東洋學校に開くものなり。殊に其の音樂唱歌の問、時々教育に關する方針を說き、以て學校と父兄諸君との連絡を通じ、倍々親密ならん事を計るとの事なれば、吾人は其の有望の會なるべしと信ずるなり。

(二月二十七日稿了)

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

寄書

〇閑庭松　大分　鈴木ちか子

苔むせる、庭のひめまつ、とこしへに、
　ときはの色も、濃きこゝちせり。

〇霞

年かけて、つもりし雪も、消えはてゝ、
　けさは尾上に、うすかすみたつ。

〇反求　東京　金子くさ子

くもりなき、むねの鏡に、うつしてぞ、
　わがよしあしの、姿とば見る。

〇觀熱海來宮之樟

幾年を、やまさとにへて、來のみやの、
　くすの器は、家土産にせん。

〇竹問霰

今朝はしも、あられふるらし、小雀の、
　ねぐらにのこる、聲のさびしさ。

〇紀元節の歌　茨城　鈴木彦松

(一)御世の始めと、幾千代も、
がぎりしられず、としごとに、
いはひまつれる、めでたさを、
たれかは言に、つくすべき。

(二)御世の始めと、いはわれの、
すめらみことの、立てましゝ、
みいつも今も、後の世も、
さかえゆくこそ、めでたけれ。

〇ひな　埼玉　翔遊亭暉文

錦着ぬ、ゑがはのゆかし、はだかびな。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

普通數學雑誌

毎月一日十五日二回發行ニシテ數理會堂同様ノ大判表紙付本文廿頁以上一冊定價五錢切手代用六錢郵送無料十冊前金四拾五錢廿冊前金九拾錢トス必前金爲替ハ本郷局へ振リ込ミ

本誌 ハ初等數學ヲ修ル學生等諸君ノ研究ニ供シ兼テ敎師諸君ノ參考ニ供ス數理問答雑記寄書ノ四欄ニ分チ就中數理問答ヲ主眼トメ編輯シ時アツテハ論説敎授ノ欄テ置クヿアリ

數理 ハ諸大家ノ講義ヲ掲ケ下ハ算術初歩ヨリ上ハ三角術及其應用迄トシ讀者ヲシテ恰モ師ニ就テ學フ如クナラシム

問答 ハ數理欄ノ講義ニ關ル演習問題課題質問ヨリ諸官立學校試驗問題等及夥多ノ解義ヲ載セテ讀者ノ實習ニ便ナラシム且ツ本誌ハ

數理會堂 及ヒ **數學書生** ト等シク最モ規律正シキ運動ヲ爲シ發行期日ニ後レ或ハ妄リニ休刊等ノ憂ナシ

初號 ハ本年五月一日發行然レ氏都合ニヨリ發行ヲ早ムル時ハ諸新聞雑誌ヲ以テ更ニ廣告スベシ

發行所　東京市本郷區弓町壹丁目壹番地　數理會堂及數學書生發行所

數理社

實力第九號

●實力●地租輕減論一班●日本實業政略●論説●蠶業講話練木喜三●製絲ノ話高橋信貞●起業者ノ注意○江湖道人●雀ハ農業ニ利アリヤ否ヤノ討議題ニ就テ○野本好一●講義●養蠶法○興農館主人●問答●添樹培養法ノ答梨子貯藏法ノ答●蚜虫ノ件答●無芒ノ良稻ノ答●肉桂樹栽培法答●果物春期迄貯藏スル法ノ答●梨園ニ關スル末永君ノ發題ニ答フ●茶園ノ笹ヲ除ク法答●家畜傳染病ノ答●質問二十六件●擬律○蠶種ノ件叢話●藍栽培法續キ●水蠖晴雨計●稻種試作ノ成績●馬鈴薯ノ汁粉ニ就テ●桑葉切鉋丁ニ鏽ヲ生セシメヌ法●馬鈴薯ノ餅●栗木栽培法●種子交換ノ注意●雑報●此好機會ヲ●農商務大臣ノ演説●精功精糖機械●製茶ニ就テ●在朝鮮日本人ノ商業●千石以上ノ酒造家○雪ト農事●馬肉ト牛肉●前田農商務次官ノ工業意見●意匠條例ノ効力●紡績會社ノ統計●日豪間貿易ノ擴張○實業時論●種子分與種苗ノ要求○餘興●勸業ノ歌○俚謳数首見本六錢●一冊六錢○一年分郵税共七十二錢本誌ニハ館友規則アリ館友トナルトキハ非常便益アリ

●發行所　埼玉縣横見郡南吉見村

興農館

庚寅新誌

第一號目次

●庚寅新誌二月十一日發兌（一部金六錢）
○發行の旨趣（總論）○我國の前途に就て○第三回内國博覽會○帝國議會●祝辭○庚寅新誌の發刊を祝す（小幡篤次郎）○庚寅新誌の發兌を祝す（福澤一太郎）○庚寅新誌の主義を問ふ（三宅豹三）○庚寅新誌の發刊を賀す（佐々木抑堂）○祝規（小出收）○庚寅新誌の發兌を祝す（西村禮作）●論説○政治と實業（穹蒼學人）○經國策如何（日東居士）●寄書○所感を記して庚寅新誌社諸氏に贈る（田川漁夫）●譚海○小女の氣轉○朝寢坊○二人畫師○學者の貧乏○足裏の飯粒○溺器の飯櫃○上の好む所下此より甚し●文范○聞ニ人談ニ國事ニ慨然賦此詩（楳坡釋史）○木川垂釣（仝人）○歸ニ臥故山（關西散史）○聽ニ薩摩琵琶ニ歌（森槐南）○時事有感（佐藤六石）祝規（大關劍峯）祝ニ庚寅新誌發兌ニ歌并短歌（阿部光忠）○新年待春（本居豊穎）○雪中遊興（河津直入）○寒蘆（加藤安彦）○旅宿曉（小出粲）○玉（鈴木重嶺）○國（千家尊福）○題しらず（勝安芳）●雜録○紀元節○皇女御降誕○憲法第六十七條○山縣内閣○參議院再設の噂○帝國議會議事筆記○廢娼論○陸奥宗光氏○興業銀行○府縣會議員撰擧の騷動○貧民黨起らんとす○條約改正○衆議院議員候補者○警視廳の改革○小學令○新法典○警部長會議○愛國公黨○鹿鳴館の夜會○パーチル氏の艶聞○漁民の罹災○布哇國會の議○新島襄氏の永眠○國民新聞と江湖新聞○慶應義塾大學部○一月中東京九大新聞の社説

二

●特別廣告

吾儕曩に見る所あり同志を糾合し山口縣青年會なるものを起し玆に之れが機として青年會雜誌てふ月刊ものを發行することゝせり是實に吾人が江湖諸君に相見るの論場なり古昔は知らず今時の青年に於ては各人其意見の懷抱なき者は蓋し少なかるへし本誌は即ち青年各位が用捨なく其意見を吐露して公論平議するの壘城なり吾人ハ明治廿三年の今日に於て最も以て此論場の必要を感するなり看よ外にしては山なす謬見未だ去らざるあり内にしては海なす弊習全く洗除せざるあり其結果政敎の間に權義相償はす本末の間に亦權義の存るも知らさるあるに至る我黨敎導を以て任する者宜く論する所なくんばあらさるなり四月一日も近きに在り六月十五日七月一日も亦甚だ遠からず國會は未定なれ共多分十一月には開設相成るべく議員の選擧會國會の開設は毫も我黨社會に及ぼすの影響なきか吾人無責任の容言を陳ずるに非ず吾人表面的直接の責任あるものにおらすとするも裏面的間接に之を獎勵するの重任あればなり明治廿三年に於ける吾人の紙筆此の如き必要あり然れ共千嶮萬峻吾人の前途に横はり江湖諸君の手を借り足を煩すなくハ百考千思するも到底前進直行する能はす江湖諸君請ふ僅か一ケ年分税共六十六錢也一擧手一投足の勞に吝なく來て此擧を扶け此論場壘築費の内へ充てよ然る時は雜誌は毎月無代價にて呈送すへきなり

周防國佐波郡三田尻町

發行所 山口縣青年會

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

北陸婦人教會雜誌第四號目次

●雜誌
新年の感　記者　金浦正弘
●寄書
新年感を記して會友姉妹に質す　百壽女史
●法話
婦人教會に於て　不二門諦觀
三十六歌仙　其二　黒崎龍勝
●傳記
惠燈大師の御傳　其二
●詞林
新年祝（歌九首）（詩一首）宿春（歌七首）新年祝（俳諧一句）
●雜報
○貴婦人會○令女教會○福田會惠愛部發會式同部趣意規則の要略○タンマハラ氏の書信幷ニ談話
●保育
ちゝの飲せかた
●會告
○發會○例會○附屬美術部
●廣告數件

石川縣金澤市西町卅六番地本願寺廟所内
北陸婦人教會本部

本社主幹呉文聰

嗚呼本年ハ是レ如何ナル年ソヤ千載一遇ナル帝國議會開設ノ第一年ニ非スヤ相フニ朝野ノ人士カ此盛典ニ答フルノ道唯赤心容論ヲ遣ルニ在リ

本誌主筆横山雅男

本誌ハ兄弟姉妹ノ關係アル經濟ト統計ノ親密ヲ謀リ併セテ其應用ノ進歩ヲ望ムモノナリ而シテ右両學科ニ有名ナル學士ハ概ネ本社ノ客員タリ

毎月一回定時刊行

經濟統計

經濟及統計

全國無遞送料之事

見本ハ要郵券八錢

一冊定價前金八錢

レビー氏云經濟學を實際の一學科を爲さしめし者は統計學にてアダムスミスの著書をして不朽ならしめし者も亦統計學也

發行所は東京市麴町四丁目の經濟統計社

大賣捌東京市神田裏神保町上田屋雜誌店

カルニエ氏云統計經濟二學は之を混ず可らすと雖二科相待て其用を爲し事物の研究と行ふに當り相伴て作用を爲す甚多し

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

五十夜物語

教育諸大家序

此書は教育家諸先生が修身歴史地理天文物理化學動植物金石學等百科學術の要を擧げ又忠臣孝子の話しをも平易簡短に最も面白く五十夜の間に談話せられしを通俗文に筆記せしものにして一種新工夫の好讀本なり故に婦女子方と雖も讀み易く解し易くして文明の新知識を得るには最も好良書なり世間博愛仁慈の父兄よ一本を家に備へ子弟をして讀ましむれば徳を脩め知識を增すのみならず實業上にも利益あらん亦壯年にして學問の暇なき人や商家の丁稚衆此書を讀まば知識を得故に身を立つるの一助とならん

美製本 全一冊定價金七十錢
郵税不要

東京日本橋區通四町目
牧野善兵衛

目錄

第一夜 空氣の話し
第二夜 地球の話し
第三夜 孝子の話し
第四夜 其二
第五夜 猿橋の話し
第六夜 親の深切なる話し
第七夜 親子の情愛の話し
第八夜 月と星の話し
第九夜 其二
第十夜 衛生の話し
第十一夜 學者の話し
第十二夜 品行を貴ぶ話
第十三夜 化學の話し
第十四夜 其二
第十五夜 地球上季節晝夜の話し
第十六夜 世界の話し
第十七夜 其二
第十八夜 忠義の話し
第十九夜 友情の話し
第二十夜 其二
第廿一夜 各國の話し
第廿二夜 其二
第廿三夜 其三
第廿四夜 動物の話し
第廿五夜 其二
第廿六夜 物理の話し
第廿七夜 造化の人を養ふ奇談
第廿八夜 節儉の話し
第廿九夜 事は分を守る話し
第三十夜 非理を望まざる話し
第卅一夜 世界各國の話
第卅二夜 其二
第卅三夜 其三
第卅四夜 元素の話し
第卅五夜 正直の話し
第卅六夜 其二
第卅七夜 植物の話し
第卅八夜 其二
第卅九夜 怯者の話し
第四十夜 勇女の話し
第四十一夜 風船の話し
第四十二夜 上古歴史の話
第四十三夜 熱心の話し
第四十四夜 發明者の話し
第四十五夜 金石の話し
第四十六夜 養子を撰む
第四十七夜 忍耐の話し
第四十八夜 陶器師の話し
第四十九夜 其二
第五十夜 農工商の話し

四

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

佐々木弘綱著書新刻廣告

歌文要語解

木版和製美本一冊正價五十錢郵稅四錢
薄用摺正價六十錢郵稅二錢

從來語釋の書文字典の類世に多かれど此書は[illegible]論にして該せる物也上段には記紀萬葉祝詞宣命等の古言下段には廿一代集源氏伊勢土佐などの雅言の難語一萬[illegible]際をなつめ平易の俗言を以て最適當なる注解を下したり古書歌文をよむ人此書を坐右に置かは其益多かるべし

詠歌自在

四季二冊正價四十錢
雜部二冊正價四十錢　郵稅共に四錢

此書は歌をまなんと思ひつゝ習ふ道を知らぬ人家にのみ居て外に出かたき人片田舍に住て師のなき人たちの爲物しつるなれは歌をよみ始むる淑女たちには是に過たる良書なかるべし

みよしの帖

正價二十五錢　郵稅四錢

此書は自詠の歌をかきしにて女子の習字帖には最宜し

活語全圖

正價八錢　郵稅二錢

こは動詞及てにをはの活用を理解し易からしめん爲表に作れるなれは文法を學ふ人は必一本を購ひたまへ

竹取物語俚言解

正價三十五錢　郵稅四錢

土佐日記俚言解

同　前

竹取物語俚言解

正價五十錢　郵稅四

右數書郵便切手代用一割增ノ事

東京神田區小川町一番地

佐々木信綱

內外百事便覽總目錄

◎皇室之部　○御歷代○皇上及皇族○皇室典範○大日本帝國憲法○告文○憲法發布勅語○大日本帝國憲法◎法令之部　○議院法○衆議院議員撰舉法附錄○會計法○貴族院令○集會條例○保安條例○新聞紙條例○出版條例○版權條例○府縣會規則○區郡部會規則◎市制町村制部　○市制○町村制○議會並議員保護ノ件○文官試驗試補及見習規則○改正徵兵令○徵兵令改正○違警罪○五等親○服忌令○明治二十一年法令目錄便覽　○官吏恩給令摘要○官吏非職條例摘要　◎土地之部(甲)　○本邦地置○全國周圍及面積○　五

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

全國各地ノ温度及雨量○著名ノ高山及大河○著名ノ湖沼及港灣○試驗濟全國ノ鑛泉○各地方廳管轄國郡 六
○郡區市町村及役所役場數○官有及民有地段別地價◎土地之部（乙）○東京日本橋ヨリ廳府縣元標ニ至ル里程
○內國諸港ヘノ航路里程○外國諸港ヘノ海路里程○內國陸路里程表（別表）◎人口之部　全國戶數及人員○全
國出生死亡人員○全國年齡別人員○族籍別人員及棄兒無籍在監人員○結婚離婚及有無配偶數○有位人
員○有勳人員○勳等年金賜與人員○有爵人員○海外滯在人員○本邦在留外國人◎外交之部○條約國名○外
國駐劄公使及領事館所在地○本邦在留各國公使領事館所在地◎財政之部　○國庫歲入出○國庫金歲入課目摘
要○國庫金歲出課目摘要○流通紙幣○貨幣鑄造及發行高○準備金及貸附○備荒儲蓄○賦金○地方稅收支○地
方稅課目別○北海道地方稅收支○區町村費收入支出精算額○區町村費收支課目別◎備荒儲蓄給與法及諸稅則
之部　○儲蓄及給與法○稅率摘要○地租○煙草稅○酒造稅○醬麴營業稅○海關稅○醬油稅○賣藥稅○菓子稅
○船稅○車稅○證券印紙稅○訴訟用印紙料○登記料及手數料○特許料及手數料○商標登錄料及手數料○意
匠登錄料及手數料○海外旅券其他免許手數料○所得稅○會社稅○牛馬賣買免許稅○銃獵免許稅○醫師免狀及
開業試驗手數料○度量衡稅○代言免許料○版權免許料○郵便條例摘要（各道郵便物發着時間表）○貯金預リ
所○內國電信料○沖繩縣出港稅○北海道水產稅○鑛山借區稅○地租割○戶數割○營業稅○雜種稅◎產物之部
○米麥作付反別及收穫高○養蠶○製茶○各種農產物收穫高○各種海產物收穫高○牛馬豚現存數及屠牛馬
鑛物出來高◎外國貿易之部　○輸出入物品元價○輸出入物品元價國別○輸出入貨幣及金銀地金價額○輸出入
重要物品○金貨英貨及外國爲換相場◎交通之部（甲）○郵便○電信○郵便爲換及電信料○郵便爲替料○郵便
小爲替料○外國郵便爲替料○外國ヘ電信料○全國鐵道○私設鐵道會社○東京馬車鐵道○車輛○暴風信號標所
在地○船舶○航路標識○海員○難波船及遭難人員◎交通之部（乙）　○鐵道哩程○鐵道各地到着時○鐵道乘客
之心得○手荷物及小荷物賃金表○新橋國府津間乘客賃金○各停車場定時乘車賃金○新橋神戶間乘客賃金○
大船橫須賀間乘客賃金及大府武豐間○米原金ヶ崎間乘客賃金○難波堺間乘客賃金○兵庫姬路間乘客賃金○馬
場（大津）神戶間乘客賃金○各停車場定時乘車賃金○大坂柏原間乘客賃金○上野仙臺間乘客賃金○伊豫鐵道松
山三津濱間乘客賃金○新宿八王子間乘客賃金○新橋赤羽間乘客賃金○仙臺鹽竈間乘客賃金○上野前橋間乘客
賃金及小山桐生間小山水戶間○高崎橫川間乘客賃金○輕井澤直江津間乘客賃金○官設鐵道ヨリ會社鐵道ヘノ
發着里程及乘客賃金○北海道鐵道手宮幌內間乘客賃金○日本郵船會社（汽船發着港時日雜則及船客運賃表）◎
船舶運賃表　○橫濱上海間船客運賃○橫濱小笠原島間船客運賃○神戶函館間船客運賃○神戶琉球間船客運賃
○神戶天津間船客運賃○神戶浦鹽斯德間船客運賃○上海浦鹽斯德間船客運賃○橫濱函館間船客運賃○神戶小
樽間船客運賃○北海道東部海岸船客運賃○北海道西部海岸船客運賃○北海道根室近海船客運賃○北海道小樽
近海船客運賃○神戶馬關尾ノ道間大坂神戶高知間橫濱四日市半田間船客運賃○自越前三國至北海岸各地船客
運賃○大坂商船會社汽船乘客運賃◎內國通運會社普通賃錢表　○貨幣賃○荷物賃○配達賃○別途運賃ノ部◎
商業之部　○諸會社○專賣特許及商標登錄○全國諸職平均賃錢○全國酒類醬油菓子製造高○全國織物及陶磁
器等製造高○物價○銀行○明治廿二年上半期各國立銀行利益割合一覽表○大藏省預金局貯金○遞信省爲換貯
金局貯金◎學事之部　○全國學校ノ數及教員生徒○博士及學士人員○博士姓名○官立私立諸學校便覽○本

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

者區之部○神田區之部○芝區之部○麹町區之部○日本橋區之部○京橋區之部○小石川區之部　牛込區之部○
淺草下谷區之部○本所區之部○四谷赤坂區之部○麻布區之部○全國新聞雜誌種類別○新聞雜誌發行高○全國
出版書籍○全國新聞雜誌一覧表○東京之部○雜誌之部○地方日刊新聞之部◎社寺衛生之部　○全國神官
及寺院住職○全國[illegible]産婆藥舖病院之數○全國死亡者病名別◎[illegible]及[illegible]法建白書之部○[illegible]及發官人
員○濟難自殺者及火災○監獄○在監人員○全國裁判廳及檢判官等人員○[illegible]訴訟件數○[illegible]○建日書
作數種類人別◎陸海軍之部　○軍人軍尉總人員○常備豫備後備軍人員○常備及乘組人員○海軍人員◎官吏府
縣會之部及附錄　○官[illegible]及月俸○議員常置委員常置委員月手當及選者[illegible]選者○勅任官及官省局長以上[illegible]所姓
名○地方長官及島司姓名錄○府縣會議長副議長及區郡部議長副議長姓名錄○東京市會議長副議長及名譽參事
會員住所姓名○東京商工會組合頭取姓名錄○商業組合之部○工業組合之部○全國代言人會長副會長姓名錄○內外貨
幣及度量衡比較表◎全世界統計部○各國國名○全世界面積及人口○全世界各國歳入出及公債額○全世界各國
外國貿易○全世界鐵道及電信○全世界郵便通數○全世界各國陸海軍○全世界軍艦類別○日本軍艦○各國軍艦○全世
界帝王及大統領○政府國會及譯員手當○國會議院選擧法略記◎和漢洋年代記之部　○將軍世系支那歴代王統
○和漢洋年代略表日本年號表○支那年號表◎官等俸給表及地圖別之部　○官等俸給表及內國旅費日當表（別
表）地球東半球西半球（別表）大日本地圖（別表）全國鐵道及電信線路圖（製表）

事ヲ調査スルノ必要、起ル毎トニ數十部ノ諸書ヲ覽閲スルハ人、其ノ煩ニ堪エス是ニ於テカ一書ニシテ百事ノ覽閲ニ便ナル者、生ス、西洋諸國ニ於テ年首ニ刊行スル「アルマナック」「カレンダー」ノ類、是レナリ毎年、年首ニ之ヲ刊行スルヤ人トシテ購ヘザルハナク戶トシテ藏セザルハナシ此ノ書一部ヲ坐右ニ備フレハ日常百事ヲ覽閲スルニ於テ其ノ便言フ可ヲザルモノアレハナリ然ルニ吾國ニ於テハ未ダ此類ノ書ナキカ故ニ偶々取調フ可キ事アルニ當テハ種々ノ書類ニ就テ之ヲ求ルノ煩ヲ免レス坐右、常ニ數十部ノ書籍ヲ具ヘ置カザルヲ得ザルノ不便アリ況ンヤ旅行等ノ節ハ一々是等ノ諸書ヲ携帶シ能ハサルニ於テオヤ然レモ坐右常ニ幾十冊ノ書堆積スルノ不便ハ尚ホ之ヲ忍フヘシ、其事極メテ必用ニシテ而シテ其書ナキニ至テハ不便、實ニ忍フ可ラス例セハ列國形勢ノ如キ、吾カ國人ガ事ニ付ケ、折ニ觸レ之ヲ覽閲スルノ必要最モ多キ者ナルニ絶テ其書アルヿ無シ偶々三五年ヲ隔テ其ノ概略ヲ譯出スルモノアルモ二三年ヲ經ルトキハ書中ノ記スル所、總テ舊事ニ屬シ活世界ノ現狀ヲ示スノ用ヲ失フニ至ル、列國ノ形勢スラ已ニ斯ノ如シ其他ノ事柄亦タ推知スヘシ龍溪矢野先生爰ニ見ルアリ二三知友ニ説テ此書ノ刊行ヲ謀リ各其受持ヲ定メテ編纂翻譯ニ從事シ昨年ノ初メ本書第一回ヲ發行セシニ果メ江湖ノ好評ヲ博シ再三再四ノ增刷ヲナスニ至レリ以テ有益必要ノ良書タルヲ知ルヘキナリ本年ノ新板モ豫定ノ通リ此度發兌ノ運ビトナレリ前版ニ比スレハ最モ正確ニ最モ新シキ事實ヲ選ミ殊ニ全世界統計ノ部ニ著シキ改良ヲ加ヘ益完全有益ノ良書タルヿヲ期セリ弊舖今般之ガ出板發兌ノ囑托ヲ受ケ廣ク江湖有志諸君ノ高需ニ應セントス希クハ續々御購求アランヿヲ

出版發行所　文昌堂

東京日本橋區大傳馬町二丁目二十二番地

長島恭三郎

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

矢野龍溪先生閲　井上寛一君　枝元長辰君　村井寛君　同編

内外 官事便覽

報知社藏板

製本體裁　最上等洋裝美本
總クロース金文字入

紙數　五百頁余

正價　金七十五錢

郵送費　金十錢

大取次所

○日本橋區通三丁目丸善書店○仝區若松町榊原友吉○仝區新大阪町小林喜右衛門○京橋區銀坐四丁目博聞社○仝區通一丁目大倉孫兵衛○京橋區南傳馬町一丁目目黒支店○神田區小川町集成社○仝區通二丁目小林新兵衛○仝區裏神保町敬業社○日本橋區大傳馬町二丁目内田芳兵衛○仝區横山町三丁目辻岡文助○仝區油町水野慶次郎○神田區表神保町中西屋邦太○大坂心齋橋通南一丁目松村九兵衛○熊本新二丁目長崎二郎○西京藤井孫兵衛○鹿兒島吉田幸兵衛○羽前山形五十嵐太右衛門○福島十一丁目萱間左右衛門○名古屋本町川瀨代助○名古屋鐵砲町三輪文二郎○同本町片野東四郎○長野大門町西澤喜太郎○長崎鶴野常藏○水戸川又銀三○前橋黒崎三郎○越後三條桶口屋小左衛門○同水原西郡六平○下總東金多々屋嘉右衛門○同佐原朝野利兵衛○高崎煥呼堂○山梨甲府柳正堂○同五明堂○大坂梅原龜七○埼玉鴻巣長島爲一郎

（遞信省認可）

明治廿三年三月三日印刷出版

（東京々橋區弓町耕文社印行）

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY